

VMwareからの移行を 簡素化する

高度な管理と自動化によって多様なクラウド
インフラストラクチャーの簡素化と移行の合理化を実現



管理の複雑化は、オンプレミスとクラウド運用、仮想化とコンテナ化アプリケーション、生成AIなどのテクノロジーを導入するための新しい必須要件に伴う高額な費用といった、さまざまな現実にITチームが対処するのを困難にします。

こうした課題に対し、Nutanixはインフラストラクチャーと管理を円滑に統合する統一プラットフォームによって、クラウド、エッジ、コアにまたがるデータとアプリの運用をスムーズにします。こうして、チームはより少ない時間で多くを達成できるようになります。

しかし、VMwareユーザーである場合は、価格をめぐる不確実性、イノベーションの欠如、サービス水準の低下など、まったく新しい一連の課題を突き付けられる可能性があります。Nutanixは、こうした課題も克服できるようにサポートします。

多くの企業は、ブロードコムによるVMwareの買収から生じるリスクを軽減するために、次のような対策を講じている：

環境の多角化。

データセンターに第二のベンダーを加えることで、ワークロードの一部をVMwareから移行できます。こうしてリスクを抑えながら、クラウドネイティブおよびAIアプリなどのモダンなワークロード向けに最高のプラットフォームを確保できます。多角化はリスクを減らします。また、インフラストラクチャーの変更に適応して、十分先の未来まで新興アプリに対応できるよう、柔軟性と拡張性も提供できます。

パブリッククラウドへの拡張。

ワークロードをオンプレミスとクラウドにリバランスすることでも、リスクを低減できます。パブリッククラウドとクラウドサービスプロバイダーは、新規アプリの構築や既存アプリの改良に役立つ沢山のサービスを含む、より一層の柔軟性と俊敏性を提供できるため、魅力的な代替案となります。

VMwareからの移行。

組織によっては、VMwareから完全に移行することが最善の戦略かもしれませんが、それには慎重な計画が必要です。この場合の重要な検討事項として、同種の機能、あらゆるワークロードをサポートする能力、明確な移行の道り、そして移行を容易にする専門的な移行サービスなどが挙げられます。

どの道を選んだ場合でも、Nutanixはインフラストラクチャーの互換性を犠牲にしたり、管理の複雑さを増大させることなく、そのユニークな立場から今後の方向性を提示できます。本eBookでは、Nutanixの管理機能を検証し、VMware運用の多角化、拡張、移行をどのようにサポートできるのか解説します。

目次

Nutanixがインフラストラクチャーと管理における課題をどのように解決するか	03
インフラストラクチャーの互換性.....	03
管理の柔軟性.....	04
VMware Aria Suiteを置き換える.....	05
Nutanixは多角化にどのように役立つのか	07
Nutanixはパブリッククラウドへの拡張にどのように役立つのか	08
NutanixはVMwareからの移行にどのように役立つのか	09
NutanixがVMwareをめぐる課題を解決する	10

Nutanixはインフラストラクチャーと管理における課題をどのように解決するのか

Nutanixは、ハイパーコンバージドインフラストラクチャー (HCI) のパイオニアであり、コンピューティング、ストレージ、ネットワーク、仮想化を統合し、VMwareを実行するための、よりシンプルで効率的なインフラストラクチャーを提供することに当初焦点を当てていました。

現在Nutanixは、ハイブリッド・マルチクラウド運用とオープンシステムに対するコミットメントで知られています。お客様が自社のビジネスニーズに適したテクノロジーを選択できる自由を提供しながら、ベンダーロックインを最小限に抑え、成功を確実にするためのサービスとサポートを提供しています。

インフラストラクチャーの互換性

Nutanixは、VMwareとNutanixの環境間でインフラストラクチャーの互換性を可能にする、多数のイノベーションを提供しています。こうした機能によって選択肢が広がり、さらなる俊敏性を持ってIT運用における移行を進めることができます。

AHVとVMware ESXiのサポート

Nutanix Cloud Platform (NCP) ソリューションはNutanix AHVハイパーバイザーとVMware ESXiハイパーバイザーを実行できるため、Nutanixを選ぶことで柔軟性が高まり、お客様のニーズと移行目的を満たす計画を立てられるようになります。

幅広いインフラストラクチャーの選択肢

NCPは大手OEM幅広い対応ハードウェア上、AWS、Azureクラウド、またEquinix、OVHcloud、Cyxteraを含む大手サービスプロバイダー上でも稼働できます。

クロスハイパーバイザーモビリティ

ハイパーバイザーの選択肢があっても、それらの間でVMを簡単に移動できなければ意味がありません。無料のハイパーバイザー間モビリティソリューションであるNutanix Moveツールを使用すると、VMware ESXiとNutanix AHVの間でVMを簡単に移動できます。重要な業務に支障をきたさないよう、カットオーバー時間を最小限に抑えます。

サポート対象となるVMwareの移行パスには、以下が含まれます:

- VMware ESXiからNutanix AHV
- VMware ESXiからNutanix Cloud Clusters (NC2) on AWS
- VMware ESXiからNC2 on Microsoft Azure
- 3Tierインフラストラクチャー上のVMware ESXiからNCP上のVMware ESXi

Nutanix AHVの導入に際してコスト分析を行った結果、Nutanixは、VMwareや過去に利用していたハイパーバイザーと比較してコスト効率が優れていることがわかりました。

Bob Fishtrom氏
マウンテンビュー・ロスアルトス高校学区



管理の柔軟性

VMwareからの移行は、正しく処理されなければ、多くの望ましくない下流への影響をもたらす可能性があります。これには、チームへの負担増、特別なスキルを持った新たなスタッフを雇用する必要性、コストの増加、そしてオペレーターによるエラーの可能性の増加などが含まれます。

Nutanixは設計上、こうした管理上の課題を軽減しています。一般的に、VMware製品に慣れた管理者であれば、最小限の再トレーニングを受けることでNutanixのオペレーションにすぐに適応できます。つまり、管理者はすぐに生産性を上げることができ、新しいスキルを持つスタッフを増やす必要性を最小限に抑えることができ明日。

“AHVにすべてを移行させる作業は極めてシンプルです。必要となるのは再起動のための5分間だけで、あとはすべてをすべてが元通りに稼働します。”

Bret Snyder,
Ruffalo Noel Levitz、シニアサーバーエンジニア

Nutanixをオンプレミスまたはクラウドのどちらかで運用する場合でも、ネットワークとセキュリティを含めた管理の一貫性を保持できます。この点は、特にNutanixをオンプレミスおよび1つ以上のパブリッククラウドで実行しているお客様にとって大きな意味を持ちます。

Nutanix上でハイブリッドまたはマルチクラウド環境を展開すると、どこでも同じ管理ツールで運用できるため、管理の複雑さが劇的に軽減されます。環境をまたいでアプリを移動させても、期待どおりに動作すると確信できます。

VMware Aria Suiteを置き換える

VMwareユーザーの多くは、vCenter以外にもVMware Aria Operations、VMware Aria Automation、Tanzu CloudHealthなど、さまざまな追加のVMwareツールを利用しています。Nutanixクラウドマネージャー (NCM) ソリューションは、こうした製品から移行するお客様のために、フルスイートの機能を提供します。

NCMは、複雑なハイブリッド・マルチクラウド環境を管理するためのあらゆる機能性を提供することで、VMwareからの移行を簡素化し、必要なライセンスだけをシンプルに提供します(図1を参照)。NCMは、シンプルな移行を提供しながら、価値創出までの時間を大幅に短縮する一連の強力な機能スイートによって、時にVMware Ariaユーザーが経験するイライラする複雑性を置き換えることができます。

AHVハイパーバイザーを使って運用コストを削減し、Nutanixクラウドマネージャーでサポートの間接経費をさらに削減しました。こうして、日々の管理タスクを自動化し、マルチクラウドの将来に向けて自信を持って前進することができます。

Rick Jagger氏
Bupa、テクニカルサービスマネージャー

VMware製品	同等のNutanix製品
VMware Aria Operations	NCM Intelligent Operations
VMware Aria Automation	NCM Self-Service
Tanzu CloudHealth	NCM Cost Governance
VMware Aria Operations for Networks	Nutanix Security Central

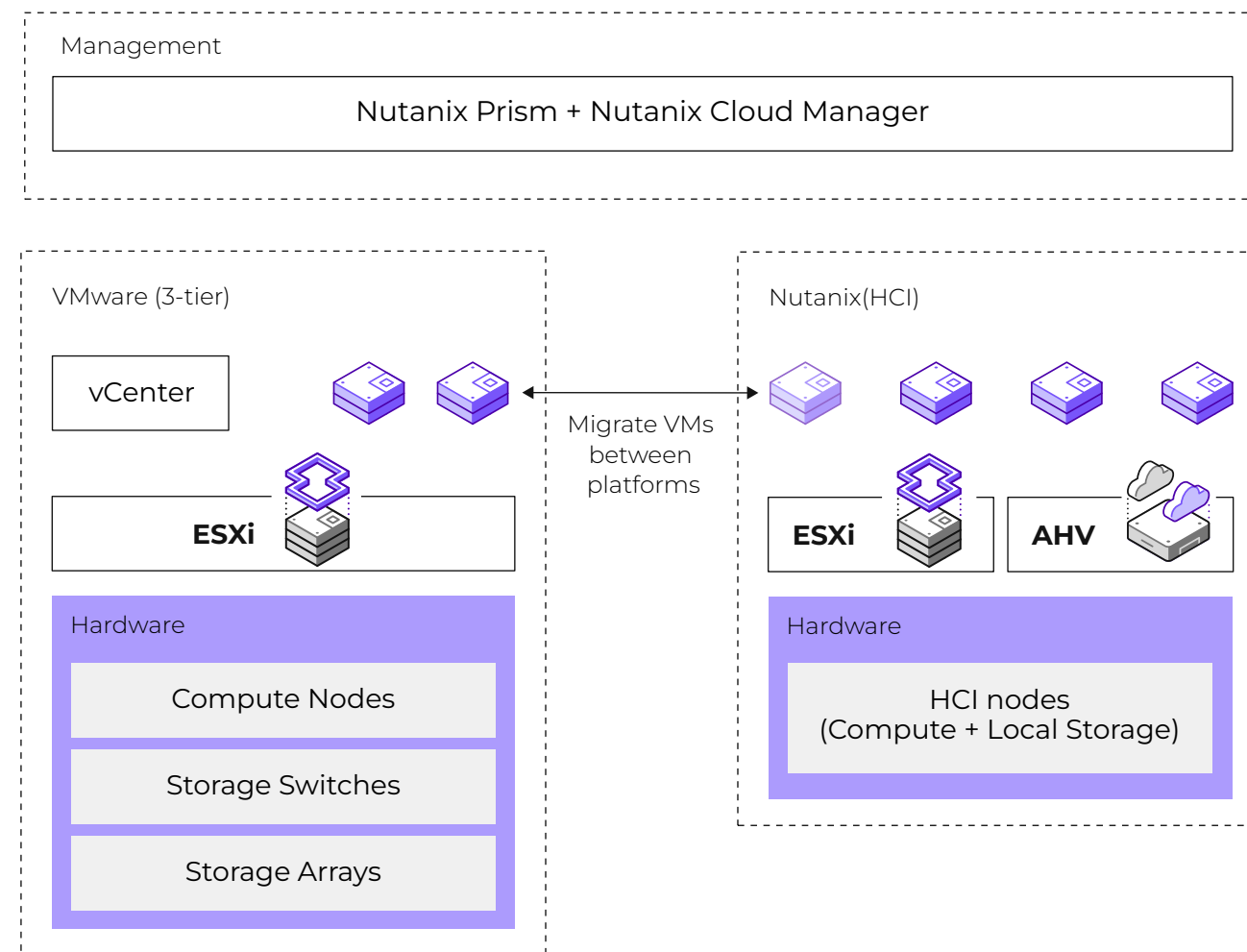


図1: Nutanixは、データセンターのフットプリント小さくするだけでなく、3Tierインフラストラクチャー上のESXiハイパーバイザーから既存のVMおよびアプリケーションをNutanix HCIへ移行する能力を持つ。

NCM Intelligent Operations は、VMware Aria Operations (旧vRealize Operations) と類似の機能性を提供します。

NCM Intelligent Operationsは、エンドツーエンドの管理および運用ソリューションを提供します。タスク自動化、機械学習アルゴリズム、および予測分析を通じて、NCMはチームによる運用の自動化、リソースの最適化、キャパシティニーズの予測、および予防的なパフォーマンスの異常検出を可能にします。また、NCMは、チケット管理システムとのインテグレーションと一貫性あるシステム監視も提供します。

NCM Self-Service は、VMware Aria Automation (旧vRealize Automation) に代わる使いやすい自動化ソリューションで、より迅速な成果の提供を可能にします。例えば、NCMは単一のVMをプロビジョニングなどの日常的なサービスとしてのインフラストラクチャー (IaaS) タスクの自動化をシンプルにします。

NCM Self-Serviceは、複数の環境にまたがる新規および既存のアプリをプロビジョニング、拡張、管理する方法を合理化します。これには、消費およびガバナンスの管理ツールのほか、ブループリントの作成、ライフサイクル自動化、および管理が含まれています。

NCM Cost Governance は、完全な可視性を備えた、業界トップのマルチクラウドコストガバナンス能力を単一コンソールから提供して、Tanzu CloudHealth (旧vRealize Aria powered by CloudHealth) に取って代わります。また、オンプレミスからパブリッククラウドインフラストラクチャーへのコスト計測と包括的なビューを単一画面で提供します。さらに、NCMはクラウド費用を直ちに節約可能な、コスト最適化に向けた対策と推奨事項も提供します。



55%

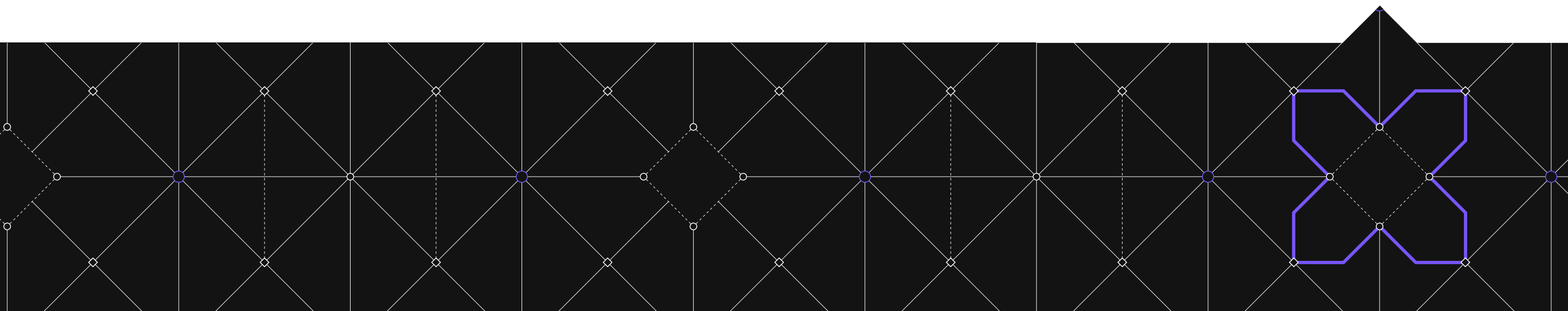
は自社のクラウドの消費量とコストの可視化を向上させる予定*



85%

はクラウドコスト管理を困難であると感じている*

出典: 第6回年次Nutanix Enterprise Cloud Index



Nutanixは多角化にどのように役立つのか

自社のデータセンターに第二の仮想化ベンダーを追加する場合、互換性は不可欠です。VMwareから新しいプラットフォームへVMを単純に移動させ、性能や信頼性の面で想定外の事態を招かず、期待通りに稼働させることができれば理想的です。

正にこれは、Nutanixが提供できることです。Nutanixは、VMの適切なサイジングとリソースの割り当てを簡単にします。そして、コスト面で著しいメリットを提供しながらも、予想外の事態を招くことなく、こうしたVMをNutanix環境に移動できます。Nutanixは、管理の簡素化と回復力の向上によって、コストの削減とリスクの最小化を実現します。

Nutanix Moveを使ってVMwareサーバーからNutanixへ移行しましたが、そのプロセスは非常にシンプルでした。負荷の少ないサーバーはすべて、数時間以内に移行することができました。

Bob Fishtrom氏
マウンテンビュー・ロスアルトス高校学区

VMware ESXiとvSphereをNutanix上で実行すると、より優れた柔軟性が手に入ります。多くのユーザーは、まずモダンアプリやAIなどの新しいワークロードをNutanix AHV上に移行してから、インフラストラクチャーが安定稼働するようになったら追加のVMwareワークロードを移行しています。代替手段としてのAHVを試しながら、既存のVMwareへの投資から価値を享受し続けることができます。

IT環境を多角化していく過程で、NCMはVMwareとNutanix環境をまたいで拡張し、シンプルな管理を保ちます。例えば、NCM Self-ServiceはNutanix以外にも、3Tierインフラストラクチャー上で稼働する既存のVMwareデプロイメントのアプリケーションライフサイクル管理を提供し、NCM Intelligent OperationsはvCenterで管理されているVMのキャパシティプランニング、異常検知、そしてライトサイジングを提供します。



Nutanixはパブリッククラウドへの拡張にどのように役立つのか

組織は重要なクラウドサービスを活用して、新しいアプリや機能の提供を加速するため、パブリッククラウドに移行しています。オンプレミスの場合と比べて、パブリッククラウド上で動作する変換済みのVMから同じパフォーマンスを得るには、多大な労力がかかります。

そして、主要なクラウドはいずれも、異なるネイティブハイパーバイザーを利用しています。AWSはXenベースのハイパーバイザーを、AzureはMicrosoft Hyper-Vを、そしてGCPはKVMベースのハイパーバイザーをそれぞれ利用しています。この点は、同じアプリを複数のクラウドで実行したり、異なるクラウド間でアプリを素早く簡単に移動したい場合は望ましくありません。

これまでの、こうした課題を最小限に抑えるためにVMwareベースのクラウドソリューションを選択していたかもしれません。しかし現在では、VMwareのクラウドオペレーションに対する継続的なコミットメントは明確ではなく、アプリケーションをVMware Cloud on AWS、Azure VMware Solution、またはVMware Cloud Service Providerへリフトアンドシフトする展望にあまり期待はできません。VMCにサブスクリプションが必要となり、[BroadcomがVMware Cloud Service Provider Programを終了すること](#)となった今、一部の顧客は潜在的な影響を回避しようと躍起になっています。

Nutanixが提供する、迅速でセキュアかつ費用対効果に優れたクラウドへの道のりでは、パブリッククラウドインフラストラクチャーの構築プロセスを劇的に簡素化しながら、コントロールを保持できます。ディザスタリカバリ、EUC、バーストキャパシティ、およびその他のユースケース向けにクラウドリソースをより簡単に活用できるほか、時間のかかる高額なリファクタリングを行う必要がありません。

現在、AWSとMicrosoft Azureで利用可能なNC2は、性能と回復力に関する厳しいサービスレベル契約を満たしながら、クラウド上で動作するVMwareに代わる優れた選択肢となります。

無料のクロスハイパーバイザーモビリティソリューションであるNutanix Moveを使用することで、リファクタリング、リアーキテクト、リプラットフォームを伴わずに、オンプレミスデータセンターからNC2とAHVにVMwareアプリケーションを移行できます。また、NC2上のパブリッククラウドで実行されるアプリは、[ネイティブパブリッククラウドと比べて最大で53%低コストになります](#)。

クラウドへの拡張にNutanixを選択することで、VMware製品に慣れ親しんだ管理者にとって馴染みのあるコンセプトをベースとした管理環境が手に入ります。また、クラウド特有のスキルを習得する必要も最小限に抑えられ、クラウド環境でミスのない業務を行うことも容易になります。

Nutanixをオンプレミスまたはクラウドのどちらで使用する場合でも、NCMの機能はハイブリッド・マルチクラウド環境に1-クリックのインテリジェントな操作性を提供するシンプルなツール群を使って、両方の環境を簡単に管理できます。

クラウド費用を最小限に留められるよう、NCM Cost Governanceは高度な機械学習アルゴリズムを使用してコストの異常を自動検出します。迅速な予防的手段を講じてリソースをライトサイジングし、クラウド費用を抑えながら、オンプレミスのコストガバナンスを実現します。

NutanixはVMwareからの移行に どのように役立つのか

コストの上昇と不確実性による不安を回避するためにVMwareからの完全な移行を計画しているのであれば、Nutanixがあらゆるワークロードに適したモダンプラットフォームで同様の機能を提供します。使い勝手の良い移行ツールキットと専門的な移行サービスによって、ワークロードのサイジングと移行を迅速かつ効率的に行うことができます。

また、Nutanixは、業務を期待通りに素早く進められるよう、トレーニング、ブートキャンプ、認定プログラム、そして無料お試し版のTest Driveも提供しています。クラウドインフラストラクチャー管理およびセキュリティに対する1-クリック操作性のアプローチによって、新しいプラットフォームの学習をシンプルにします。

どのようなテクノロジーを移行する場合でも、常に最大の課題となるのは新しいテクノロジーを導入しながら古いテクノロジーを完全に廃止していない、中途半端な状態になることです。管理の複雑さは増していき、移行を進めるためのサイクルを見つけづらくなることもあります。

Nutanixの管理機能は円滑な移行を可能にするため、どっちつかずの状態で過ごす期間を最小限に抑えることができます。管理者は通常、Nutanixへの移行が直感的であり、プラットフォーム間の管理機能を提供しているため、移行を非常にシンプルに進めることができますと感じています。

VMwareからNutanixへ移行していく中、NCMの機能を活用し、望ましい結果が得られるまで環境全体を管理することは次第に容易になります。



NutanixがVMwareをめぐる課題を解決する

運用の多角化、パブリッククラウドへの拡張、またはVMwareからの移行など、NutanixはVMをVMwareからNutanixに移行する際、より少ない時間で、想定外の事態を抑えて実現できます。無料のクロスハイパーバイザーモビリティソリューションであるNutanix Moveは、移行するVMの数が1台または1,000台であっても、マイグレーションを自動化して簡素化します。

NCMは、ハイブリッド・マルチクラウド環境全体の管理に必要な高度な管理機能を提供し、VMware Ariaを代替となるフル機能で長年のVMwareユーザーに著しいメリットを提供します:

- **統合管理。**単一コンソールからAHV、ESXi、vCenter/vSphereを管理。
- **完全なライフサイクル自動化。**より少ない労力でアプリケーションライフサイクル全体を自動化して管理。
- **シームレスな移行および自動化。**既存の自動化をNCMに移行して、将来的な自動化の工程を簡素化することで、混乱の多い移行を回避。
- **価値創出までの時間を短縮。**NCMの直感的なツールでより大きな価値を少ない時間で達成。

あとは、クラウドにおける成功を目指して突き進むだけです。実際にNutanix環境のお試しをご希望の方のために、Nutanixの違いを体験していただける無料お試し版のテストドライブをご用意しています。

Test Driveを利用する

詳細をご希望の場合は、nutanix.com/jpをご覧ください。また、Nutanixへのお問い合わせは、contact-jp@nutanix.comまでメールでのご連絡、またはwww.nutanix.com/jp/demoからデモリクエストをお待ちしております。

NUTANIX

contact-jp@nutanix.com | nutanix.com/jp | [@nutanixjapan](https://twitter.com/nutanixjapan)

©2024 Nutanix, Inc.無断転用は禁止されています。本文書に記載された、Nutanix、Nutanixのロゴ、およびNutanixのその他全ての製品、提供機能、およびサービス名は、米国およびその他の国においてNutanix, Inc.の登録商標または商標となります。Nutanix, Inc.は、VMware by BroadcomまたはBroadcomと提携していません。本書に記載されているVMwareおよびさまざまなVMwareの製品名は、米国およびその他の国におけるBroadcomの登録商標または商標です。本文書に記載された、その他のブランド名は、識別目的のみに使用されており、それぞれの所有者の商標となります。本コンテンツ内に含まれる一部の情報は、調査、発行物、アンケート、および第三者の情報源および当社が独自に行った社内での予測・研究におけるその他のデータに関連するか、これに基づいています。こうした第三者による調査、発行物、アンケート、およびその他のデータは本コンテンツの投稿時点で信頼性があるものの、独自には検証されておらず、当社は第三者の情報源から取得した情報の適性、正確性、または完全性に関して一切の表明を行いません。SimplifyYourTransitionFromVMware-eBook-FY24Q4_ja-JP_10092024

